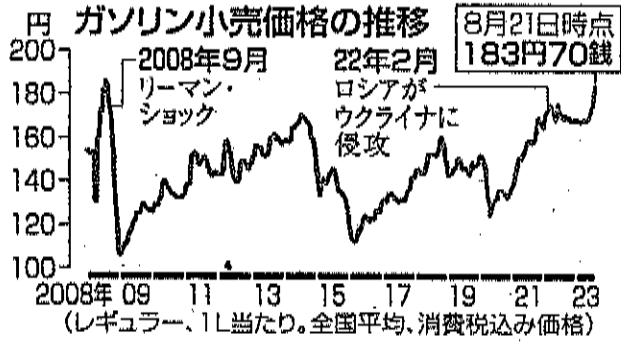


ガソリン 183円70銭

最高値迫る 14週連続値上がり

経済産業省が二十三日発表した二十一日時点のレギュラーガソリン一リッター当たりの全国平均小売価格は、前週調査より一円八十銭高い百八十三円七十銭だった。値上がりは十四週連続。政府が価格抑制のための補助を段階的に縮小していることが響き、十五年ぶりの高値が続いている。政府、与党は家計の負担軽減に向け、月内に対応策を取りまとめる方針だ。

福井は187円20銭



原油相場の上昇も背景に、比較可能な一九九〇年以降の最高値百八十五円十銭(二〇〇八年八月)に迫る状況となった。調査した石油情報センターの担当者「来週も目安や補助の縮小で値上がりする見通しだ」と話した。

補助金額は基準に基づいて毎週決めており、二十四日からは一リッター十円となる。経産省は補助がない場合の二十八日時点の価格

を百九十六円ちよつと予測しており、補助金を単純に反映させると百八十六円となり、最高値を更新する計算だ。二十八日時点の価格は三十日に発表する。

二十一日時点の価格は四十六都道府県で値上がりし、滋賀県のみ横ばいだった。最高は長野県の百九十二円三十銭で、鹿児島県の百九十円十銭が続いた。岩手県が百七十八円九十銭で最も安かった。福井県は百八十七円二十銭だった。

ハイオクガソリンは全国平均で一円九十銭高い百九十四円六十銭、軽油は一円七十銭高い百六十三円十銭だった。灯油は十八リットル(一般的なタンク一個分)当たり二千二百円で二十九円値上がりした。

ガソリン補助金はウクラ

イナ危機などに伴う原油相場の高騰を受け、二二年一月に始まった。今年九月末で期限を迎えるのを踏まえ、岸田文雄首相は価格高騰対策を八月中に取りまとめるよう与党に指示。補助金の延長も含め、価格抑制を続けることを検討している。